【日本語】

「天下白」の命名に関する考察

－万里集九の蘇軾の詩の受容について

羅宇

北京師範大学 文学院

古代文学研究所

【論文概要】　日本の五山僧万里集九は、海外における蘇軾受容の重要な人物である。彼の蘇軾詩の抄本『天下白』と詩文集『梅花無尽蔵』が、蘇軾に学んだ彼自身の経歴を表している。筆者の考証によると、『天下白』という書名に見る集九の命名の意図が「雪堂之雪」にあり、この面から、彼の蘇軾受容の方向性が窺える。その内因を考えてみれば、戦乱によってもたらされた生計維持の苦境と従来の宗教信仰の崩壊が、集九に蘇軾理解を深める絶好の機会を与えたことがわかった。一方、その外因について考察してみれば、地方の「州校」で講学を行う際に発生した現実問題は、積極的に雪堂を通して独自の蘇軾受容をしようとした集九の行動に直結している。応仁の乱の後、集九をはじめとする五山禅僧たちは、ただちに人生を再建しなければならず、それが五山禅僧たちの蘇軾受容の出現の根本的な原因となり、また日本における蘇軾受容史に多大な影響を与えたのである。

【キーワード】　『天下白』　雪堂 万里集九　蘇軾　五山文学

【中国語】

《天下白》命名考

——兼论万里集九的苏轼诗接受

【内容提要】日本五山禅僧万里集九，是苏轼海外接受史上的关键人物。不论是其苏诗抄物《天下白》，还是其诗文集《梅花无尽藏》，都展露了他学苏的轨迹。据考证，集九对《天下白》的命名本意应为“雪堂之雪”，这一点正透露出他的东坡接受的关键方向。从内因上看，由战乱所造成的生存基础崩塌、传统信仰断层，给集九提供了理解东坡的绝佳契机；从外因上看，在地方州校讲学的现实困境，使集九主动塑造了由雪堂走近东坡的独特接受道路。而应仁之乱后重建人生的迫切需求，正是集九等室町中后期禅僧接受苏轼的思想原因，这也深刻影响了苏轼日本接受史的发展方向。

【关键词】　《天下白》　雪堂　万里集九　苏轼　五山文学